

(2011年度)

1 日本史問題 (60分)

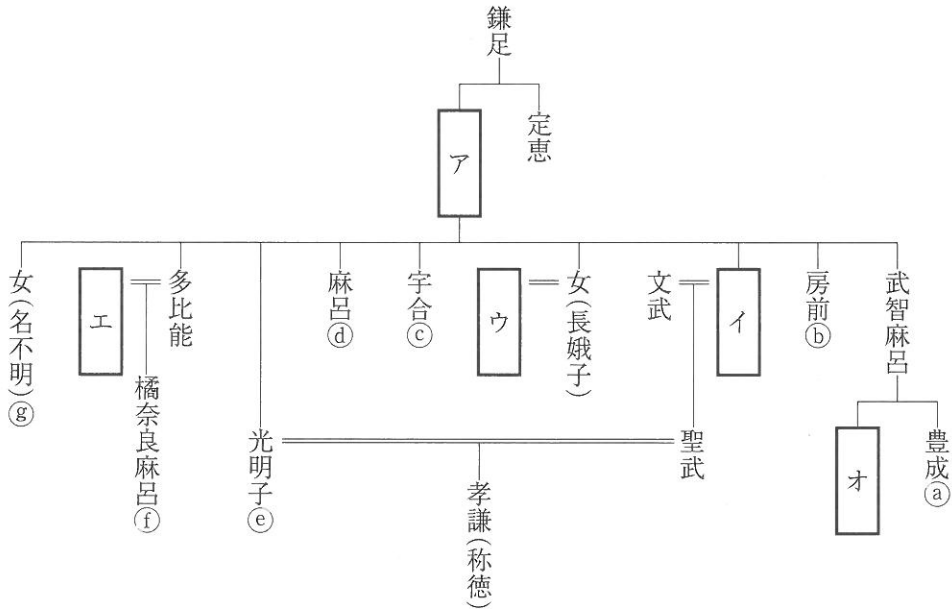
(この問題冊子は13ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 携帯電話・PHSの電源は切ること。
3. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し，氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机の上に置くこと。
4. 監督から試験開始の合図があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
7. マークをするとき，枠からはみ出したり，枠のなかに白い部分を残したり，文字や番号，枠などに○や×をつけたりしてはならない。
8. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
10. 試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 藤原氏に関する次の系図をよくみて、以下の問いに答えなさい。

〔系図(高島正人『藤原不比等』吉川弘文館、1997年、246～247頁より一部改変)〕



問1 次の短文(1)～(10)は、空欄 ～ に該当する人物について説明したものである。それぞれの人物に当てはまる内容をすべて選びなさい。また、短文中の空欄(あ)～(し)に該当する語句を下記の語群より選び、文章を完成させなさい。

- (1) (あ)の子で、724年に左大臣の地位に就いた。その邸宅跡は1988年に発掘され、大量の木簡が出土した。
- (2) 藤原四子が疫病の流行により死没した後、738年に右大臣となった。母は(い)で、光明子とは異父兄妹に当たる。
- (3) この人物の病を治療した僧(う)は、717年に阿倍仲麻呂らとともに入唐し、帰国後は時の政権に重用された。
- (4) 光明皇太后の信頼を得て、皇后宮職を改編した(え)の長官となった。後に大師(太政大臣)にまで昇り詰めるが、孝謙太上天皇の寵愛を受け

- た僧道鏡を除こうとして失敗、乱を起こして(お)国で敗死した。
- (5) 大宝律令の制定に参画し、養老律令編纂の中心となった。
- (6) この人物の政権に重用された(か)は、717~735年に及ぶ留学経験に基づいて活躍し、学者政治家としてのちの菅原道真と並び称された。
- (7) この人物が右大臣であった際に上申された太政官奏の冒頭には、「頃者このころ百姓漸く多くして、田地窄狭さくきょうなり。望み請ふらくは、天下に勧め課せて、田疇でんちゅうを開闢ひらかしめん」とある。この官奏を介して発布された法令を、(き)と呼んでいる。
- (8) 盧舎那大仏造立の勧進に協力したという僧(く)は、この人物が右大臣として政権の中核にあった頃、詔に名指しで批判され弾圧された。
- (9) 『万葉集』は、この人物が政権の首班にあった759年までの和歌、約4500首を収録している。うち、末尾に「世間を憂しとやさしと思へども 飛び立ちかねつ鳥にしあらねば」の短歌を伴う長歌(け)は、(こ)の国守であった山上憶良の作である。
- (10) この人物の妻である(さ)は、草壁皇子の娘であり、天武天皇・持統天皇の(し)に当たる。

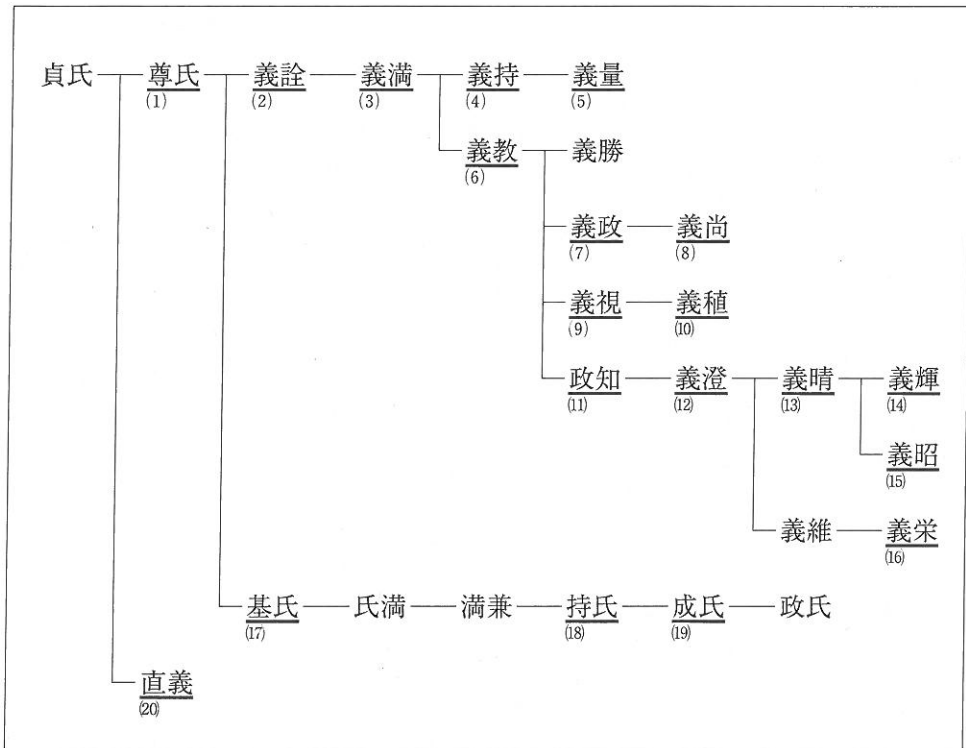
[語群]

- ① 筑前 ② 県犬養三千代 ③ 墾田永年私財法 ④ 妹
- ⑤ 良弁 ⑥ 貧窮問答歌 ⑦ 良田百万町歩の開墾計画
- ⑧ 曾孫 ⑨ 吉備内親王 ⑩ 高市皇子 ⑪ 吉備真備
- ⑫ 道慈 ⑬ 三世一身法 ⑭ 近江 ⑮ 行基 ⑯ 淡海三船
- ⑰ 玄昉 ⑱ 行路死人歌 ⑲ 蔵人所 ⑳ 紫微中台 ㉑ 孫
- ㉒ 下野 ㉓ 県犬養広刀自 ㉔ 葛野王 ㉕ 阿倍内親王 ㉖ 姉
- ㉗ 東歌 ㉘ 舎人親王 ㉙ 安宿媛 ㉚ 石上宅嗣

問2 次の短文(1)～(3)で説明される人物は、家系的に㉑～㉓のいずれに連なるか、もっとも適切な記号を選びなさい。

- (1) 740年、左遷先の九州で反乱を起こし、問1の(う)(か)を排除しようとしたが敗死した。
- (2) 嵯峨天皇の皇后で仏教信仰に篤く、「檀林皇后」とも呼ばれる。仁明天皇の生母。
- (3) 「此の世をば我が世とぞ思ふ望月の かけたることも無しと思へば」という藤原道長の和歌を書き留めた日記、『小右記』の筆者。有職故実に精通していた。

2 次の足利氏系図について、以下の問いに答えなさい。



問1 次の史料(1)~(5)に記載されている事柄ともっとも関係の深い人物を系図の中から答えなさい。

(1) 只天下ハ破レバ破ヨ。世間ハ滅バ滅ヨ。人ハトモアレ我身サヘ富貴ナラバ、他ヨリ一段かがやかんよう 登羹様ニ振舞ント成行ケリ、(中略)当御代臨時ノ(a)トテ、大嘗会だいじょうえノ有リ十一月ハ九ケ度、十二月ハ八ケ度也。又彼借錢ヲ破ラントテ、前代未聞徳政ト云事ヲ此御代二十三ケ度迄行レケレバ、倉方モ地下方(モ)ヘ皆絶ハテケリ。

(2) 日本(b)某、書を大明皇帝陛下たてまつるに上る。日本国開闢以来、聘問を上邦に通ぜざること無し。某、幸にも国鈞それがしを乗り、海内に虞れ無し。特に往古の規法したがに遵ひて、(c)をして祖阿に相副へしめ、好を通じて方物を献ず。

(3) 就中天下の事、更に以て目出度き子細これ無し。近国に於いては、…悉

く皆御下知に^おこたはず、年貢等一向進止せざる国共なり。(中略)サテ
(d)御下知の国々は…一切御下知に^おこたはず。守護の^{てい}体、別体に於いて
は、御下知畏み入るの由申し入れ、遵行等これを成すと雖も、(e)以
下在国のものの中々承引する能はざる事共なり。

(4) 諸国擾乱に依り、寺社の荒廢、本所の^{ろうろう}牢籠、近年倍増せり。而るに^{たまたま}適
静謐の国々も、武士の^{らんすい}濫吹未だ休まずと云々。(中略)次に近江・美濃・尾
張三ヶ国の本所領半分の事、(f)として、当年一作、軍勢に預け置く
べきの由、守護人等に相触れ^つ訖ぬ。

(5) 昨日の^{あらあら}儀粗聞^あく。一献^{はじまりじぶん}両三献、(g)初時分、内方ど、めく。何
事ぞと御尋ね有るに、雷鳴かなど三条申さるるの^{うしろ}処、御後の障子引あけ
て、武士数輩出て則ち(d)を討ち申す。(中略)此の如き犬死、古来其
の例を聞かざる事なり。

問2 問1にあげた史料(1)~(5)の中の空欄(a)~(g)の事柄を説明する
のにもっとも関係の深いものはどれか答えなさい。

- ① 兵糧米徴収のために設けられた所領。
- ② 在京する守護に代わり、国人を組織化するなど領国の統治にあたった。
- ③ 臨時に課せられた公事で段別に賦課された。
- ④ 博多の商人
- ⑤ 大和結崎座の観阿弥・世阿弥父子によって、曲舞・田楽・延年の舞など
がとりいれられ大成された。
- ⑥ 荘園領主に代わり現地の荘官などを指揮した。
- ⑦ 京都の土倉に課した営業税で月額200貫程度と推定される。
- ⑧ 諸国に散在した將軍の直轄領のこと。
- ⑨ 元々は朝廷を指したが、足利將軍や鎌倉府の長官のことも指すように
なった。
- ⑩ 太皇太后・皇太后・皇后に准じた待遇を与えられた人のこと。
- ⑪ 堺の商人
- ⑫ 將軍の下に編成された直轄軍のこと。

問3 次の事柄(イ)～(チ)ともっとも関係の深い人物を系図の中より答えなさい。

- (イ) 六分の一衆とよばれた山名氏の内紛に介入し、山名氏清を滅ぼした。
- (ロ) 鎌倉府の長官となり、上杉憲顕を関東管領として召還し、東国10カ国を治めた。
- (ハ) 応仁の乱では、当初東軍の総大将として活動したが、後に西軍に投じた。
- (ニ) 鎌倉府に赴くため関東に下向したが、伊豆堀越に留まり、堀越御所と称された。
- (ホ) 織田信長に擁立され將軍となったが、やがて反信長勢力の結集を画策し、京都から追放された。
- (ヘ) 二頭政治が破綻した結果、観応の擾乱で敗死した。
- (ト) 朝貢形式の勘合貿易を中止したが、政治的には比較的安定していた。
- (チ) 享徳の乱が勃発すると、下総国古河を本拠地として幕府に対抗した。

3 日本史上の「戦国時代」及び戦国大名について、以下の問いに答えなさい。

問1 定説によれば、戦国時代は応仁の乱に始まり、終わりは、室町幕府が滅んだ年を当てる。その終わりは西暦何年に当たるか。

- ① 1570 ② 1571 ③ 1572 ④ 1573 ⑤ 1574

問2 信長の治世において、次の問いに答えなさい。

(1) 次の各文(ア～オ)を年代順に並べたとき正しいのは次のどれか。

ア 甲斐の国の大名家を、三河国で、これまでの常識を覆す戦術でうちやぶった年。

イ 天下統一の障りとして、長年敵対関係にあった宗教勢力を包囲し、講和した年。

ウ 安土城に移り、「天下人」として安土の「楽市令」など、具体的な諸策を実行しはじめた年。

エ 天下人への布石として、中央政府の権威を利用するため足利将軍と入洛した年。

オ 中国の故事にちなんだ岐阜(太平と学問の中心)を地名として入城した年。

- ① イアエウオ ② オエアウイ ③ エイオアウ
④ アオウイエ ⑤ ウオエイア

(2) 信長の治世時の天皇は誰か。

- ① 後柏原天皇 ② 後奈良天皇 ③ 正親町天皇
④ 後陽成天皇 ⑤ 後水尾天皇

問3 戦国時代の始まりを、「応仁の乱」より少しずらしてみる考え方が最近提出された。中央政府である室町幕府の弱体が戦国時代の始まりとする考え方であるが、すくなくとも、幕府は、日野富子の子である室町将軍(A)の時代までは、中央集権として機能しており、幕府一守護体制そのものに正面から反逆的態度を示した者はいないためである。その結果、修正論は、明応二年(1493)の(B)が、将軍(C)を追放した「明応の政変」頃を戦国時代の実質上の始まりだとする意見がある。

(1) 空欄(A)と(C)にあてはまる室町将軍をそれぞれ答えなさい。

- ① 義満 ② 義教 ③ 義政 ④ 義尚
⑤ 義視 ⑥ 義植 ⑦ 義晴 ⑧ 義輝

(2) 空欄(B)にあてはまる人物名を答えなさい。

- ① 細川忠利 ② 細川晴元 ③ 細川高国 ④ 細川勝元
⑤ 細川重賢 ⑥ 細川忠興 ⑦ 細川政元 ⑧ 細川藤孝
⑨ 細川頼之 ⑩ 細川光尚

問4 戦国大名について、以下の問いに答えなさい。

(1) 以下の(ア)~(オ)の各文は、戦国大名として知られる誰のことを述べたものであるか。それぞれ語群より選びなさい。

(ア) もと安芸の(a)であったが、陶晴賢を討ち、尼子を制し中国地方の支配権を確立した。

(イ) 伊勢盛時を祖とする戦国大名の三代目として、古河公方などの旧勢力をうちやぶり、関東をほぼ手中におさめた。

(ウ) 尾張の(b)の奉行の子であり、1555年より清洲に居城を構えた。

(エ) 清和源氏の支流であり、鎌倉時代から(c)の家系であった。信濃、駿河、遠江に支配権を広げ、三方原の戦いで勝利したが、上洛の志を果さず死去した。

(オ) 土佐の国人から勢力を拡大し、一時期、四国全土を領したが、秀吉に屈服した。

[語群]

- | | | |
|--------|---------|----------|
| ① 毛利元就 | ② 小早川隆景 | ③ 織田信長 |
| ④ 武田信玄 | ⑤ 上杉謙信 | ⑥ 長宗我部元親 |
| ⑦ 山内一豊 | ⑧ 大内義隆 | ⑨ 龍造寺隆信 |
| ⑩ 徳川家康 | ⑪ 大友義鎮 | ⑫ 今川義元 |
| ⑬ 北条氏康 | ⑭ 朝倉義景 | ⑮ 島津貴久 |

(2) 上記の文章中空欄の(a)~(c)に該当する語句をそれぞれ選びなさい。

- ① 守護 ② 守護代 ③ 国人 ④ 地頭 ⑤ 奉公人

問5 次の文章は、戦国大名の家臣団の組織について述べている。空欄にあてはまる語句を下記の語群より選びなさい。

戦国大名は、親類から構成される(あ)や、代々主君に仕えてきた(い)といった、従来からの家臣団に加え、(う)と呼ばれる、大名の領域拡大に従って新領域に以前から住み新たに家臣団に加わった武士を抱えた。また、戦国大名は、村落土着の武士である各地の(え)を家臣とすることで、軍事力を増強した。(う)は知行地を受け、給人となり、(え)は年貢の中間得分である(お)の取得権を保護された。また戦国大名は(か)などの下級家臣を構成した。大名は家臣たちの収入を錢換算し(き)という基準に統一し、それに見合った一定の(く)を負担させた。下級家臣は、上級家臣である(け)に預けられる形で組織された。

[語群]

- ① 大老 ② 譜代衆 ③ 代官 ④ 奉行 ⑤ 軍役
- ⑥ 庄屋 ⑦ 貫高 ⑧ 寄親 ⑨ 側衆 ⑩ 若年寄
- ⑪ 地侍 ⑫ 老中 ⑬ 一門 ⑭ 側用人 ⑮ 加地子
- ⑯ 郡代 ⑰ 石高 ⑱ 城代 ⑲ 足輕 ⑳ 外様衆

問6 戦国大名はそれぞれ、独自の法体系をつくり、家と国の統治を行っていた。次の2つの領国法(甲と乙)の制定にかかわった大名を語群からそれぞれ選びなさい。

(甲)塵芥集(1536年) (乙)新加制式(1562~73年)

[語群]

- ① 島津義久 ② 大内義隆 ③ 武田信玄 ④ 大内持世
- ⑤ 伊達植宗 ⑥ 三好長治 ⑦ 伊達政宗 ⑧ 北条氏康
- ⑨ 島津貴久 ⑩ 北条氏政 ⑪ 武田勝頼 ⑫ 三好長逸

4

次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。ただし、文章中で下線のついた語句(a)～(z)については一部に誤りがあり、結果として歴史的には正しくない文章となっている。

1912年8月に明治天皇が死去したが、明治が終わり大正時代が始まったこと、また東京帝国大学教授の憲法学者美濃部亮吉が『憲法講話』を刊行して、天皇機関説や政党内閣論を唱えたことなどは、明治期とは異なる新しい政治が始まるものと期待された。その後、1916年に吉野作造が民中主義を提唱して、政治の民主化を求める国民の声も、次第に強いものとなっていった。

それをうけて、1911年の大逆事件以来、「冬の時代」にあった社会主義者たちは、活動を再開し、1919年には労働運動家や学生運動家、諸派の社会主義者たちが一堂に会した日本社会主義者同盟が結成されたが、結局は禁止された。社会主義の学問的な研究にも制限が加えられて、1921年には東京帝国大学助教授の森戸辰男が、マルクスの研究を追及されて、休職処分にされた。社会主義勢力においては無政府主義者と共産主義者が対立していたが、ロシア革命の影響で共産主義の影響力が増大し、1923年には、日本共産党がソ連共産党の支部として非合法に結成された。さらに、平塚雷鳥・伊藤野枝などによって赤瀾会が結成され、社会主義の立場からの女性運動が展開された。

その後、普通選挙法の成立をうけて、社会主義勢力は議会を通じての社会改造をめざすようになり、1926年、合法的な無産政党として農民労働党が結成された。

普通選挙法により1928年に実施された初めての衆議院選挙の際、それまでは非合法活動を余儀なくされていた日本共産党が公然と活動を始めたので、時の政権は選挙直後に共産党員の一斉検挙に乗り出し(五・一五事件)、翌年にも大規模な検挙を実施した(四・一六事件)。このため、日本共産党は、大きな打撃を受けた。

そして、前述の天皇機関説は、右翼の攻撃をうけていたが、1936年に軍出身の貴族院議員菊池寛がこれを反国体的であると非難したのを契機に、政治問題化した。天皇機関説は、いわば正統な学説であったものの、現状打破をめざす諸勢力

が激しく攻撃したため、時の齋藤実^(v)内閣は押されてしまい、国体明徴声明を出さざるをえなくなり、天皇機関説を否認した。

1930年代になると、思想や言論の取締りも強化され、社会主義だけではなく、自由主義的・民主主義的な学問への弾圧も強まったが、代表的なものとして、^(w)1932年に自由主義的な刑法学説を唱えていた滝川幸辰京都帝国大学教授が文相の鳩山一郎により休職を余儀なくされた事件、植民地経済政策の研究者であった大^(x)内兵衛東京帝国大学教授が政府の大陸政策を批判したために1937年に大学を追われ、著書も発禁とされた事件などがあった。

さらに、日中戦争が始まると、政府は⁽³⁾国体精神^(y)総動員運動を展開する一方、^(z)1940年には内閣情報局を設立して、マスメディアの総合的な統制をめざし、戦争遂行のために利用する方針をうちだした。

問1 上記の文章中の下線の付いた語句(a)～(z)について、それぞれを歴史的に見て正しいものを○、誤っているものを×で表記するとき、連続する2件[(a)と(b)、(c)と(d)など]の関係は、次の4通りとなる。

- ① ○○ ② ○× ③ ×○ ④ ××

- (1) 下線部(a)と(b)の関係を、上記の①～④から選びなさい(以下同様)。
(2) (c)と(d)
(3) (e)と(f)
(4) (g)と(h)
(5) (i)と(j)
(6) (k)と(l)
(7) (m)と(n)
(8) (o)と(p)
(9) (q)と(r)
(10) (s)と(t)
(11) (u)と(v)
(12) (w)と(x)
(13) (y)と(z)

問2 上記の文章中の下線の付いた語句(1)~(3)について、それぞれもっとも正しい説明を以下の中から1つだけ選びなさい。

(1) 普通選挙法について

- ① 1926年に成立した。
- ② 25歳以上の男女に選挙権が与えられた。
- ③ 30歳以上の男子に被選挙権が与えられた。
- ④ これによって、有権者の数は、それまでの3倍に増えた。

(2) 鳩山一郎について

- ① 立憲民政党所属の議員として活動した。
- ② 1942年のいわゆる「翼賛選挙」では、大政翼賛会の推薦をうけずに当選した。
- ③ 1954年から1957年まで首相の座にあった。
- ④ 大韓民国との国交樹立を果たした。

(3) 日中戦争について

- ① 盧溝橋事件が発端となった。
- ② 日本側から宣戦布告がなされた。
- ③ 勃発時に中国に駐屯していた日本軍は、日清戦争後の下関講和条約に基づくものであった。
- ④ 中国の国民政府は、武漢に移って抗戦を続けた。